

経済不況・人材不足の危機に対峙する シリコンバレー

相田洋志

米国の雇用問題

2010年4月1日、トヨタとGM（ゼネラル・モーターズ）との合弁会社であるNUMMI（ヌーミー、米国カリフォルニア州フリーモント市）が最後の自動車生産を終えた。同社は1984年、米国での現地生産を望むトヨタと、トヨタの生産ノウハウを欲するGMの思惑が一致して設立された。設立以来、地域住民の雇用を支えてきたが、昨今の経済状況の変化などから、その26年の歴史に幕を閉じることとなった。約4700人の従業員は、ほぼ全員が解雇される見通しだという。

米国労働省の雇用統計によると、2010年3月の失業率は9.7%、前月から横ばいだった。徐々に回復傾向にはあるが、今後数年間はこの水準にとどまる可能性が高いというのが大方の予想である。筆者の住むサンフランシスコ、勤務先のサンマテオでも、シャッターの閉まった店舗などが多く見られ、その経済状況は肌で感じられる。

シリコンバレーの状況

ここで、シリコンバレーにおける現在の経済状況を見たい。

ジョイントベンチャー・シリコンバレー・ネットワークとシリコンバレー・コミュニティ・ファウンデーションが2010年2月にまとめたレポート「the 2010 Silicon Valley Index」^{※1}（以下、レポート）によると、2008年第2四半期から09年第2四半期にかけて、シリコンバレーでは9万件の雇用が消失したという。

また、今までシリコンバレーが他地域に比べてこの経済不況に持ちこたえられてきた結果とも取れる^{※2}が、2008年12月から09年12月にかけて、シリコンバレーの雇用者数の減少率は合衆国全体の減少率を上回った（シリコンバレー：5.8%減少、合衆国全体：3.8%減少）。シリコンバレーでも不況の影響が顕在化してきたといえるだろう。

シリコンバレーの抱える問題は雇用率だけにとどまらない。レポートではシリコンバレーにおける外国人材への依存度についても

言及している。シリコンバレーのサイエンスエンジニアリング関連の人材は、2008年現在、その6割を外国人が占めている。

2000年以降、同分野の人材はシリコンバレー全体で12%増加しているが、その増加を支えてきたのはインド、中国、韓国といった国出身の技術者である。なかでもインドからの人材流入は目覚ましく、その割合は、2000年の20%から08年は28%と大きく増加している。その一方で、同分野の米国出身の人材は、その絶対数が減少している状況である。インド、中国、韓国の経済発展に伴い、今後はこれらの国々からの人材流入のペースは鈍ってくると予想されており、優秀な人材の確保はシリコンバレーの抱える課題といえる。

シリコンバレー復活の鍵

レポートでは、悲観的状況のみを伝えているわけではない。2000年のIT（情報技術）バブル崩壊以降、シリコンバレーへのベンチャーキャピタル投資は低調なまま

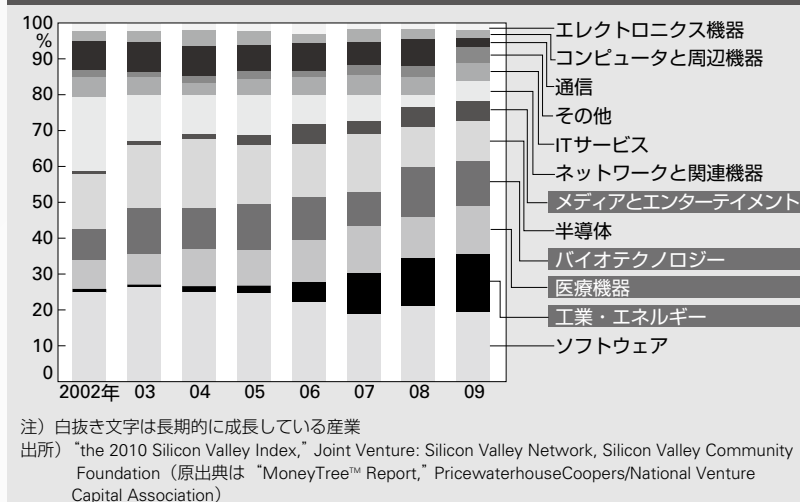
だが、シリコンバレーへの投資対象が新しい分野に移ってきているとも指摘している。

図1は、2002年以降のシリコンバレーにおけるベンチャーキャピタルの投資対象の推移を表したものである。2002年以降大きく成長を遂げている分野として、「工業・エネルギー」「メディアとエンターテインメント」「バイオテクノロジー」「医療機器」の4つが挙げられている。また、縮小傾向にあった「ネットワークと関連機器」が13%も向上している。この数字は昨今のクラウドコンピューティングの隆盛に起因するものと予想される。

またレポートは、シリコンバレーの復活には、州政府、連邦政府による援助が必須であるとしている。州政府の財政難による生活基盤の低下は教育レベルの低下につながり、教育レベルの低下は優秀な人材の育成を難しくすることにつながる。さらに、連邦政府のシリコンバレーに対する研究・開発などの投資が縮小傾向にあることにも言及している。1993年から2008年にかけて、合衆国全体で政府調達資金は4%も上昇しているにもかかわらず、シリコンバレーでは0.1%減少しているという。

レポートでは、今日のインター

図1 シリコンバレーにおける産業ごとのベンチャーキャピタル投資の推移



ネットの原型であるアーパネットが1969年に米国国防総省の指揮で構築されたことに触れ、連邦政府の政策ベースの協力が必要であることを訴えている。オバマ大統領の政策により実現した、政府機関向けクラウドコンピューティングサービスの提供サイト「Apps.gov」などは、シリコンバレーにとって非常に嬉しいニュースだったのではないと思われる。

最後に、レポートは以下のようなメッセージを送っている。「人材・テクノロジーへの投資、州政府のサポート、連邦政府の政策なしには、シリコンバレーはその強みを発揮し続けることはできない。現状に満足せず、現在のシリコンバレーの危機を認識し、コミュニティ全体で課題解決をしてい

く必要がある」

シリコンバレーからの学び

経済不況に起因する雇用不安・将来の人材不足など、現在シリコンバレーが抱える問題は日本が抱えている問題に非常に似ている。そして、成長産業を見出し、政府・企業が一体となって産業を盛り上げていく努力が必要であるという先のレポートの言及は、現在の日本が抱える問題を解決に導くヒントにもなるのではないだろうか。

注

- 1 <http://www.jointventure.org/images/stories/pdf/2010%20Index-final.pdf>
- 2 <http://www.readwriteweb.com/start/2010/02/silicon-valley-2009-job-loss.php>

相田洋志（あいだひろし）

NRIアメリカ主任テクニカルエンジニア